

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 槻田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

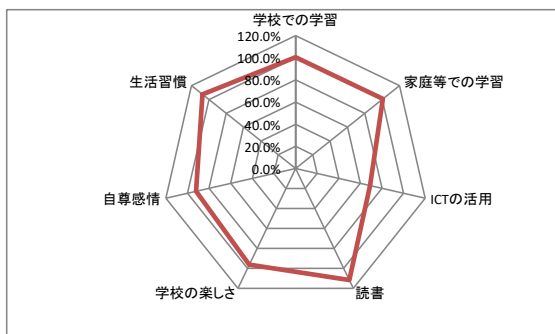
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	漢字等、語句に関する問題についてはよくできているが、説明を要する問題をやや苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	漢字を書く(のぞく)	
	努力が必要な問題	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	
数学	全体的な傾向や特徴など	計算等の基礎的な問題はよくできているが、証明等の問題をやや苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	
	努力が必要な問題	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を話し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	
理科	全体的な傾向や特徴など	基礎的な問題はよくできているが、説明等の問題をやや苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	
	努力が必要な問題	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力に□いて説明する	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ・携帯電話の所持率が増加し、2時間以上接触している生徒の割合は増加している。 ・将来の夢や希望をもっている生徒は全国と比べて低い。進路選択や卒業へ向けそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる必要がある。 ・読書好きな生徒は全国と比しても高く、積極的な読書活動の推進を今後も進めていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○どの教科においても、説明等を要する問題を苦手としているので、様々な教科において、言葉で説明するという取組を重点的に行っていく。
○ICT活用の時間が短いので、タブレット等を利用し、学習に役立てる方策を立てる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○スマホ等の利用時間が長くなっているため、家庭でのルール作りを積極的に推奨していく。
○読書好きな生徒が多いので、図書室等の積極的な整備を続けていく。